とうきょう すくわくプログラム活動報告書

杉ノ子第二保育園

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

光の探究活動

＜テーマの設定理由＞

・水遊びの際に日よけタープに映った水の影や行事の夏祭りや映画館ごっこで使用したプロジェクターからスクリーンに映り込んだ職員の影を見て、光と影に興味を示す姿が見られたことから、テーマを「光」に設定した。

＜活動内容＞

水遊びの時に水に光が反射して、日よけのタープに映った光に子どもたちが気が付き、そこから、光の探究活動を進めていく。セロハンに光を通すと色が写ることやペットボトルの水に光が当たり床の色が変わる等に気が付く。その後自然光の他にはどんな光があるか探究していく。光のテーブルやプロジェクター、鏡等を活用して色々な素材に触れ探究活動を行っていった。

２．活動スケジュール

・第一回目　水遊びの時に太陽の光を利用して、カラーセロファンを水に浮かべた時の色の映り方や、足の上に映るセロファンの模様や色などを探究した。またペットボトルに入れたカラー水や飾りが光に当たった時の影の映り方なども探究した。 ・第二回目　５グループに分かれ、映してみたい玩具やカラー積み木、また自分や友だちをプロジェクター・書画カメラを使用し、スクリーンに映しどのような見え方をするのかを自分たちで発見、探究していった。 ・第三回目　５グループに分かれライトテーブルやミラーを使用しながら、子ども達が映してみたい素材をたくさん用意し自由に選択し、自分たちで素材を動かしながら映り方の変化を探究していった。 ・第四回目　５グループに分かれ引き続きライトテーブルとミラーを使用し、子ども達が触れる素材はシンプルに３色（赤・青・黄）の○△□型タイルのみにして探究活動を行なった。

３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〇第一回～第三回　・プロジェクター、書画カメラ、スクリーン、玩具、ブロック、ラケット、ステンドグラス型カラー積み木、ライトテーブル、ミラー、季節の自然物、カラータイル　水の入ったクリアケース、ミラーワールド

〇第四回

・ライトテーブル、ミラー、赤・青・黄の〇△□型カラータイル

・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育士との関わり

☆ スクリーンに映った光と影を見て

ラケットの影を見て
「つかまっちゃうよ！」

「大きな手だ！」

「大きくなった！」

☆ 光のテーブルに好きな素材を映した。また、水の入ったクリアケースをテーブルの上に置くと、光の屈折で映り方が変わる様子に驚いていた。

「目がいっぱい映ってる。〇〇ちゃんの手もいっぱい！」

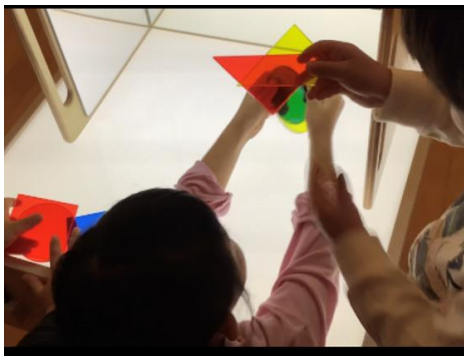
「こうやると光るのにこうやると光らない。なんで？」

「なんで？
いっぱいあるように
見えるよ！」

☆　素材をシンプルに。赤・青・黄の〇△□のカラータイルのみを用意。

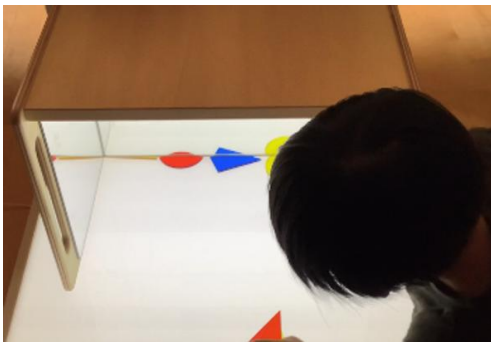
始めはタイルを横並びにして、それが重なると・・・

「黄色と青で黄緑になったよ。」
「こっちは紫だよ。」

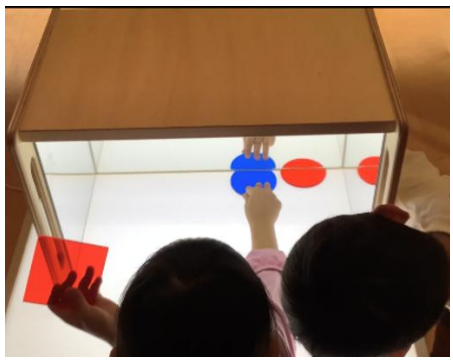


それぞれが発見したことを共有し合う。「ねぇ、交換してみよう！」と提案。

「見て！お家の電気がついたよ！」



裏側の隙間からタイルを通すと、半分に映ることに気付き、「おもしろい！」と楽しむ。



タイルを出したり引っ込めたりして、映り方の変化を発見する。

４．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・探究している時にはできるだけ声を掛けず、子どもが「どこまでやりたいか」を見守る大切さを知ることができたことは、保育者として良い体験ができたと思う。日常の保育でも自分の声掛けを振り返ってみたいと思った。

・実践の報告を見て、型にとらわれた保育をしていたかもしれないと感じた。自然な発想を待たず、保育者が誘導してしまいがちであったかもしれないと思った

・物が豊富な時代になっているが「何もない所から生みだす本来の力」があることを改めて思い起こした。

・職員間の共有では、一つの「光」のテーマだけで継続していくこともすごいと思った。他のテーマでの探究も興味がある。との意見がでた。

実践の共有をしたことで様々な意見を聞くことができ、参考にしてみたいことや今までの実践をより深く振り返ることができた。

・職員間で対話をしたことで、固定観念や個人の主観になってしまうところから抜け出し、そこから山岸先生のコメントや対話でのアイデアを取り入れて実践することができたことが大きな気付きだと感じた。